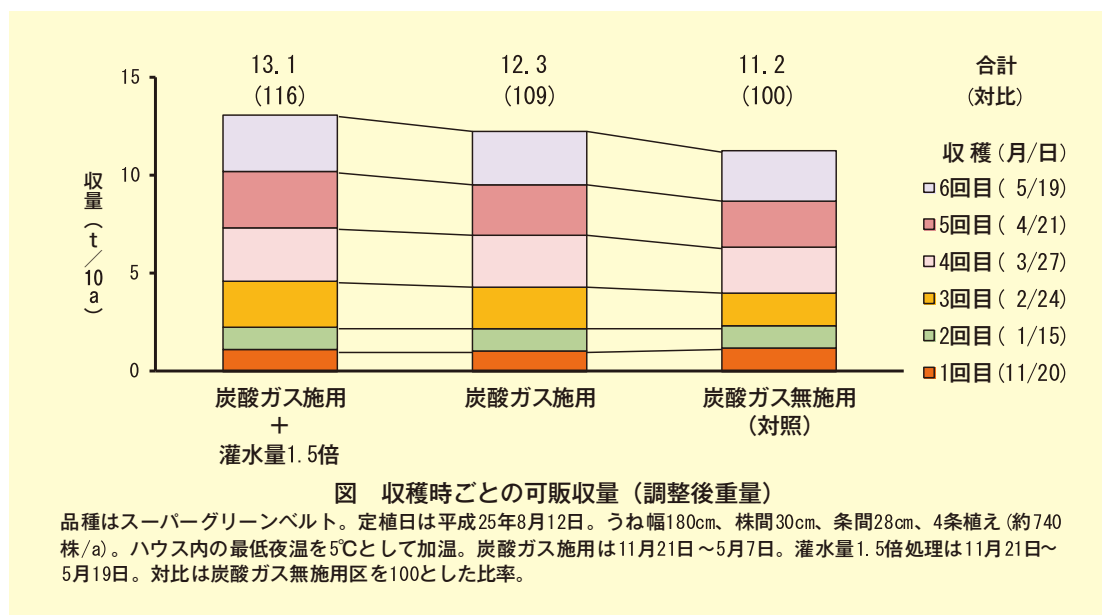


農業技術センターニュース

目 次					
	ハウスニラにおける炭酸ガスの施用効果	・・・1		シヨウガ根茎腐敗病菌の土壌からの検出法	・・・4
	ダリアの11～3月出荷作型に適した育苗方法	・・・2		カラーピーマンの光照射追熟方法	・・・5
	水稻「西南136号」の 普通期栽培における現地適応性	・・・3		薬用作物ミシマサイコの安定生産に向けて	・・・6

ハウスニラにおける炭酸ガスの施用効果



農業技術センターでは、こうち新施設園芸システムの課題の一つとして、平成25年度からハウスニラでの炭酸ガス施用による増収技術の開発に取り組んでいます。ここでは、1回目収穫翌日の11月21日から6回目収穫12日前の5月7日までの期間、午前6時から換気開始まで800ppm、換気開始後は400ppm以上となるように炭酸ガスを施用した場合の増収効果について、灌水量の影響とあわせて紹介します。

炭酸ガスを施用した区での可販収量は、炭

酸ガス無施用区に比べて、3回目以降の収穫で多くなり、全体では炭酸ガス施用のみの場合に9%増、灌水量1.5倍を組み合わせた場合に16%増と増収効果が確認されました。

しかし、1～2月には炭酸ガスを施用した区で葉先枯れが発生したことから、その原因究明や対策が必要です。また、電照を組み合わせた場合の収量への影響など、調査すべき課題が多く残されていますので、今後も引き続き検討していく予定です。

(営農システム担当 橋本和泉 088-863-4918)